

『原三溪翁伝』 輪読を終わって

2012年3月の研究会をもって、平成21年10月から足掛け4年にわたった輪読が一応の終わりとなりました。そこで、会員から寄せられた感想をお届けします。



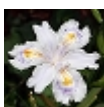
三谷子（みやこ）

東日本大震災から1年を翌日に控えた3月10日に、藤本實也著「原三溪翁伝」輪読最終回施行。最終章、第11節「食通」第12節「煙霞癖」を読んだ。去年の例会は、震災後で、休会だった。日常の復活の有り難さを思うと同時に、関東大震災で壊滅的だった横浜の復興に貢献して下さった三溪翁の偉業に改めて感謝した。



片岩榮子

本を初めて手にした時の喜びが蘇ってくる。翁伝の月一回の輪読会でページをめくる度に、原 富太郎翁の人間性が深く係わりあう絆が羨ましい。人徳と先見性の明が周りに安心感を与え、お金の使いどころや、公共貢献で横浜商人として共感を呼ぶ偉人です。3月で最終回を迎え一抹の寂しさを感じます・・・・・・・・・・・・・・・・



俊

登山にたとえばようやく山の裾野をぐるりと回って、どこから登ろうかと考えられる時期になったということだ。ただし頂上が見えないのでこの先の行程をどのように組めばよいかはわからない。確かなことはこの山は登るに値する山であることが分かったことであり、道の途中にも学ぶべきことはたくさんあるということだった。



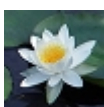
ぐんま MOGU

原三溪翁伝の誕生発掘にあたった三溪市民研究会に群馬県から参加、著者藤本實也の手書き原稿の読み込み作業から、三溪翁の墓参、ゆかりの地訪問、三溪翁を考える、シンポジウムや講演会への参加、「原三溪翁伝」の出版後原三溪翁伝の読解等で足かけ7年、これからの研究会の企画する活動計画に期待する私、三溪教の信者に成った私、どうぞお導き下さい。



築比地規雄

思えば遠く横浜へ… 群馬から横浜まで往復6時間、東武浅草経由でよく通ったものだと自分ながら感心します。先生をはじめ素敵な皆さんとの出会いがあったればこそ。感謝。業平橋の空地の穴掘りから基礎工事、鉄の柱が一段一段積み上げられ、今年2月末に施工主に引き渡された世界一の電波塔「東京スカイツリー」の進捗状況を毎月見ることの出来た4年間でもありました。スカイツリーも輪読会も一段また一段の積み重ねの賜物。完了万歳！！



山中容子

輪読会では私にとっては難解な文章や内容を資料を用いて発表していただき、学び多い会でした。色々な方々の意見交換も聴け、楽しかったです。自分では読み込めない本を読み終わった気分です。ありがとうございました。



SS

途中からの参加でしたが、毎回いろいろなお話を聞いて楽しく読むことができました。参加できなかった部分は皆さんに聞きながら読んでいこうと思います。この本を作り上げた皆さんと輪読ができてとても幸せです。



写真系の弟子

読了なう☆ 仕事でも趣味でも後世の読者を魅きつける三溪翁の人生は、とても真似できるものではありません。それにしても、様々な経歴を持つ会員が原三溪の旗の下に集うことができたのはすごいことだと思います。



尾関 孝彦

私が、原三溪市民研究会に入会させていただき〈原三溪翁伝〉は、途中から読むことになりました。会員の皆様の詳細な分析と読解で、翁の偉大な、人物像がみえました。それは、まさに“目から鱗”でした。マルチ人間三溪翁の偉大さに感服しました。



遠足係

第一回目の輪読を担当、手さぐりでまとめたものを発表。それから19回。あとに発表された仲間の素晴らしい考察や読み解きにしばしば感激。今思えば自分の発表は足りない点多々あったな、と。一冊の本をこんなに深く、様々な人の視点で読むことはなかなか経験できないこと。輪読会終えて充足感あり。



野中宏泰

「原三溪翁伝」の編纂など、この会への参加に感謝しています。とりわけ、私は「第三編・性格と趣味」の部分を担当しました。著者、藤本実也氏は原富太郎（三溪翁）が祖父伝来の教育などに育まれ、無欲が正義につながるという崇高な信念の実践と人間性を記述されていますが、只々、感服するばかりでした。名利のための罅迫り合いが常道の世相は今も変わらないが、「正義と公明」「博愛公心」「静止熟慮」「光風清月」などの精神や清々しい字句を自らの糧にしたいものだと思ふとあらためて考えることの出来た素晴らしい機会でした。